

# 海域対策ワーキンググループ オニヒトデ対策及び環境省の取組

2014年1月27日  
第17回石西礁湖自然再生協議会

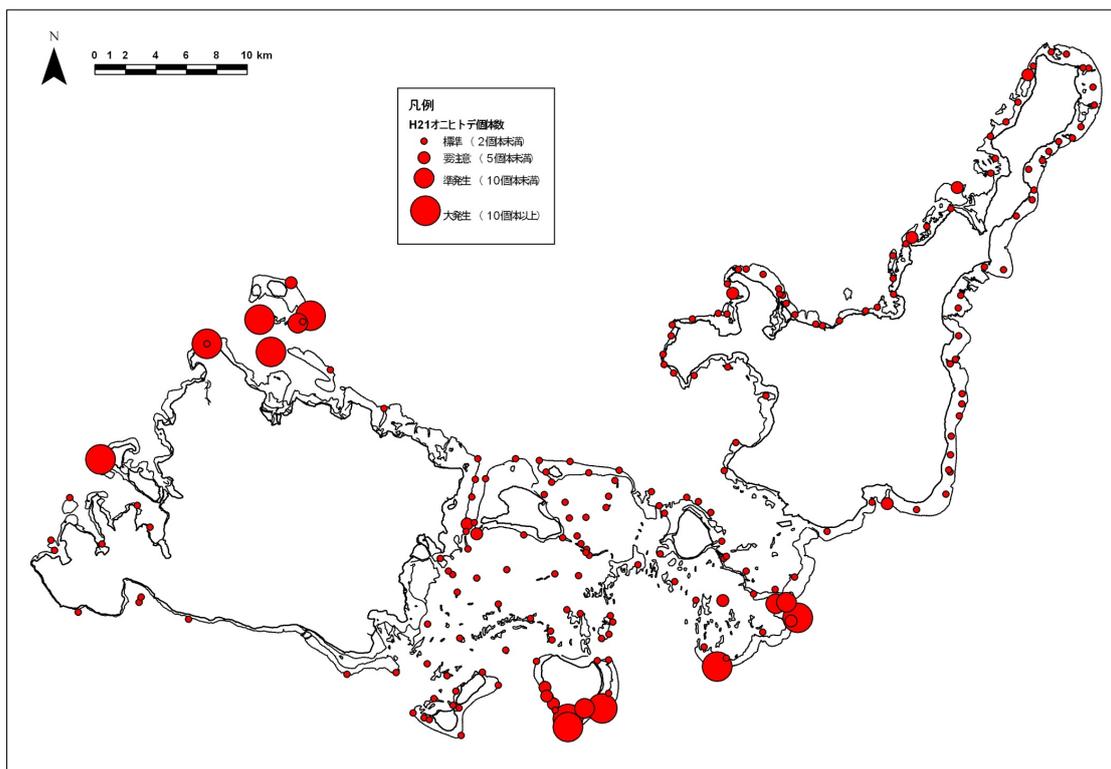
環境省那覇自然環境事務所

1

オニヒトデ発生状況

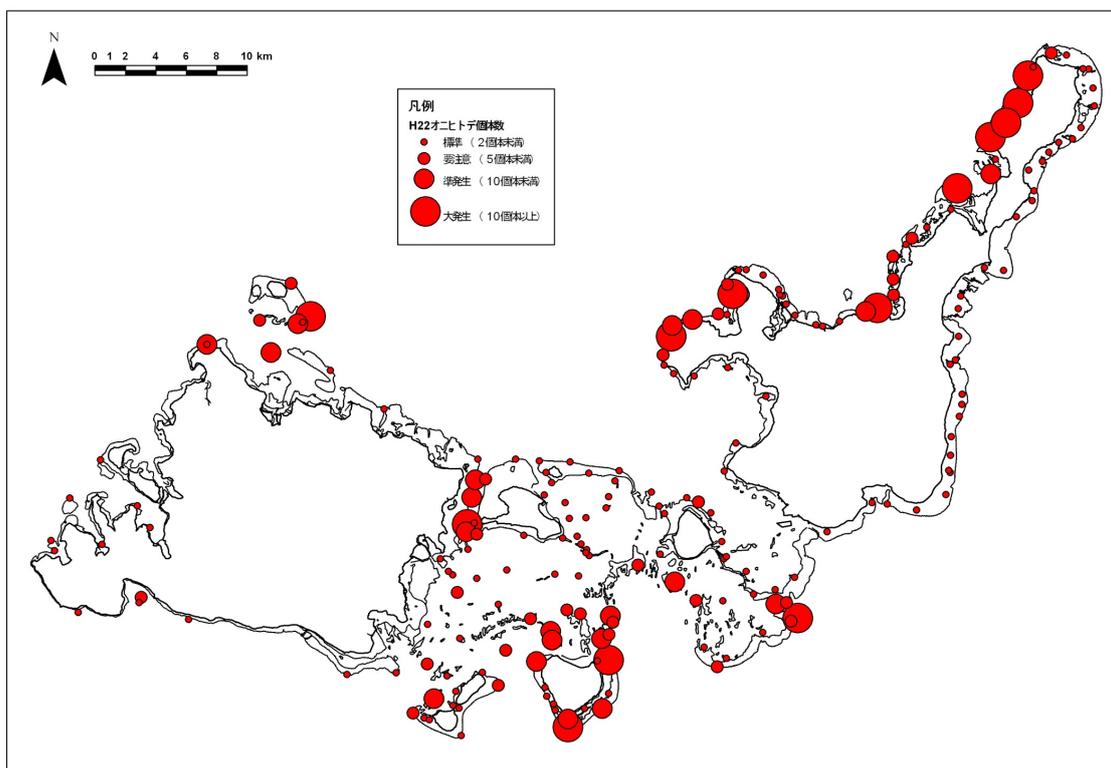
2

# オニヒトデ発生状況 2009



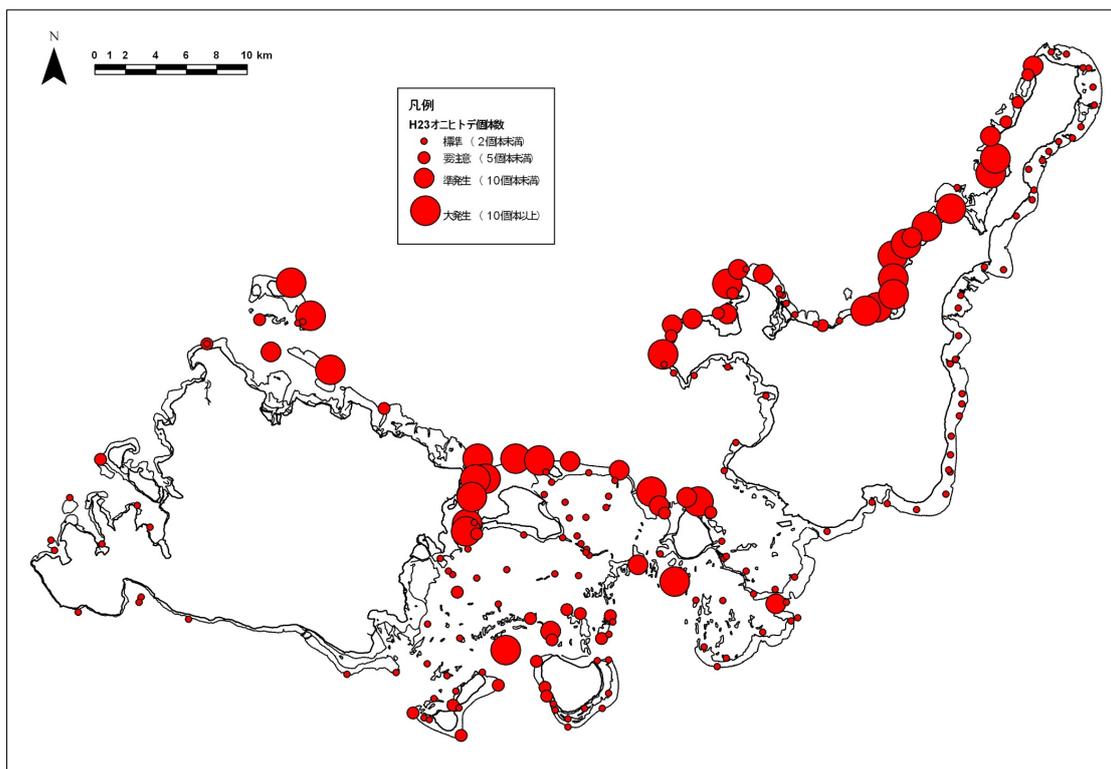
3

# オニヒトデ発生状況 2010



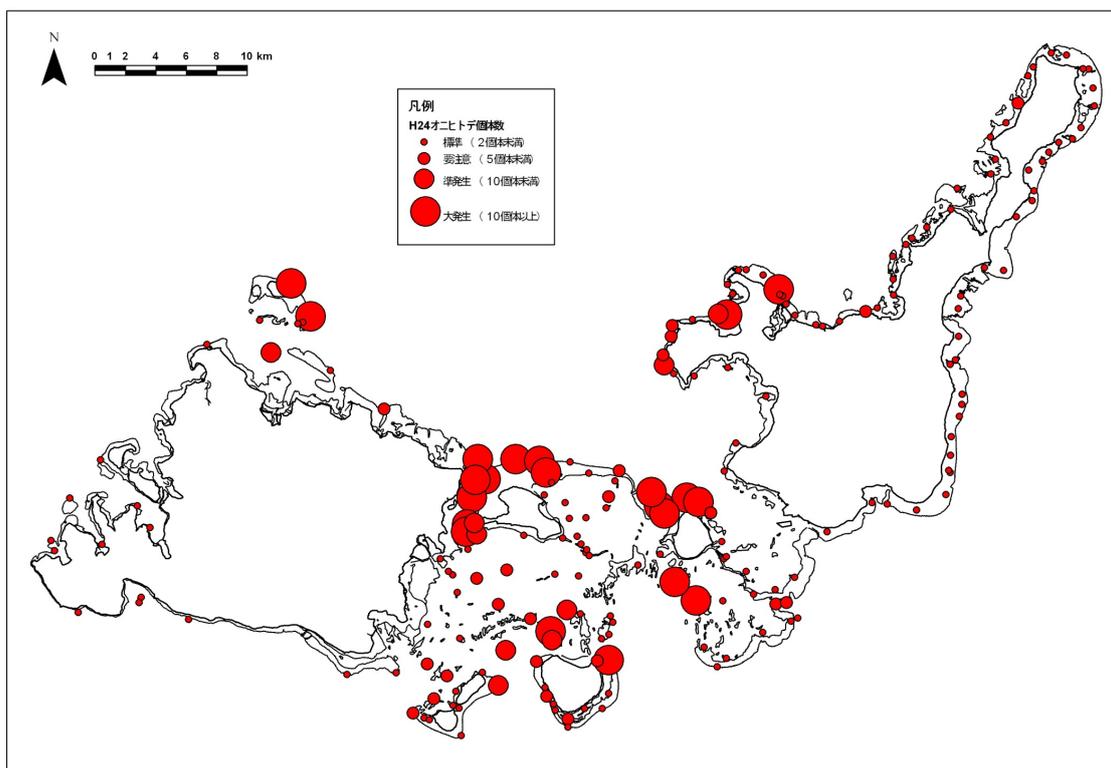
4

# オニヒトデ発生状況 2011



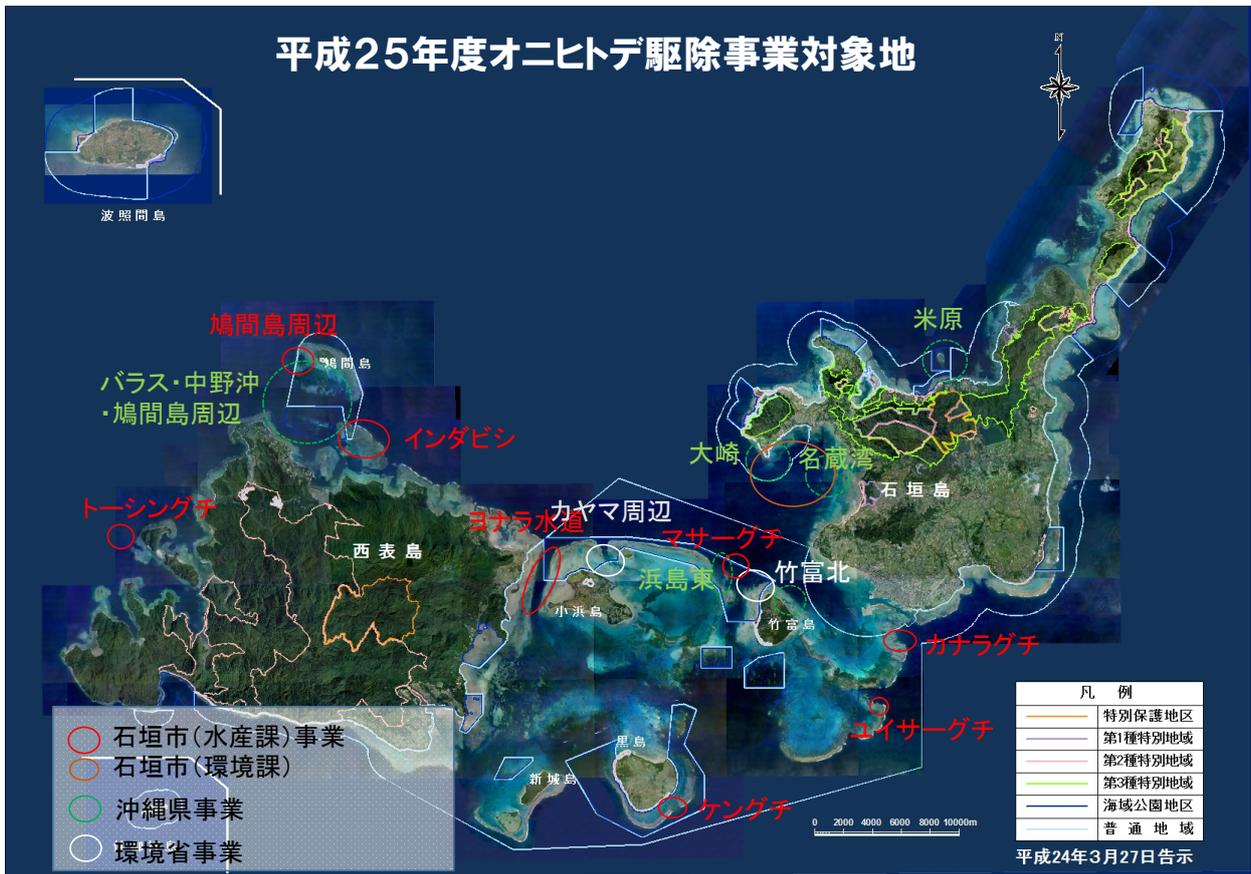
5

# オニヒトデ発生状況 2012



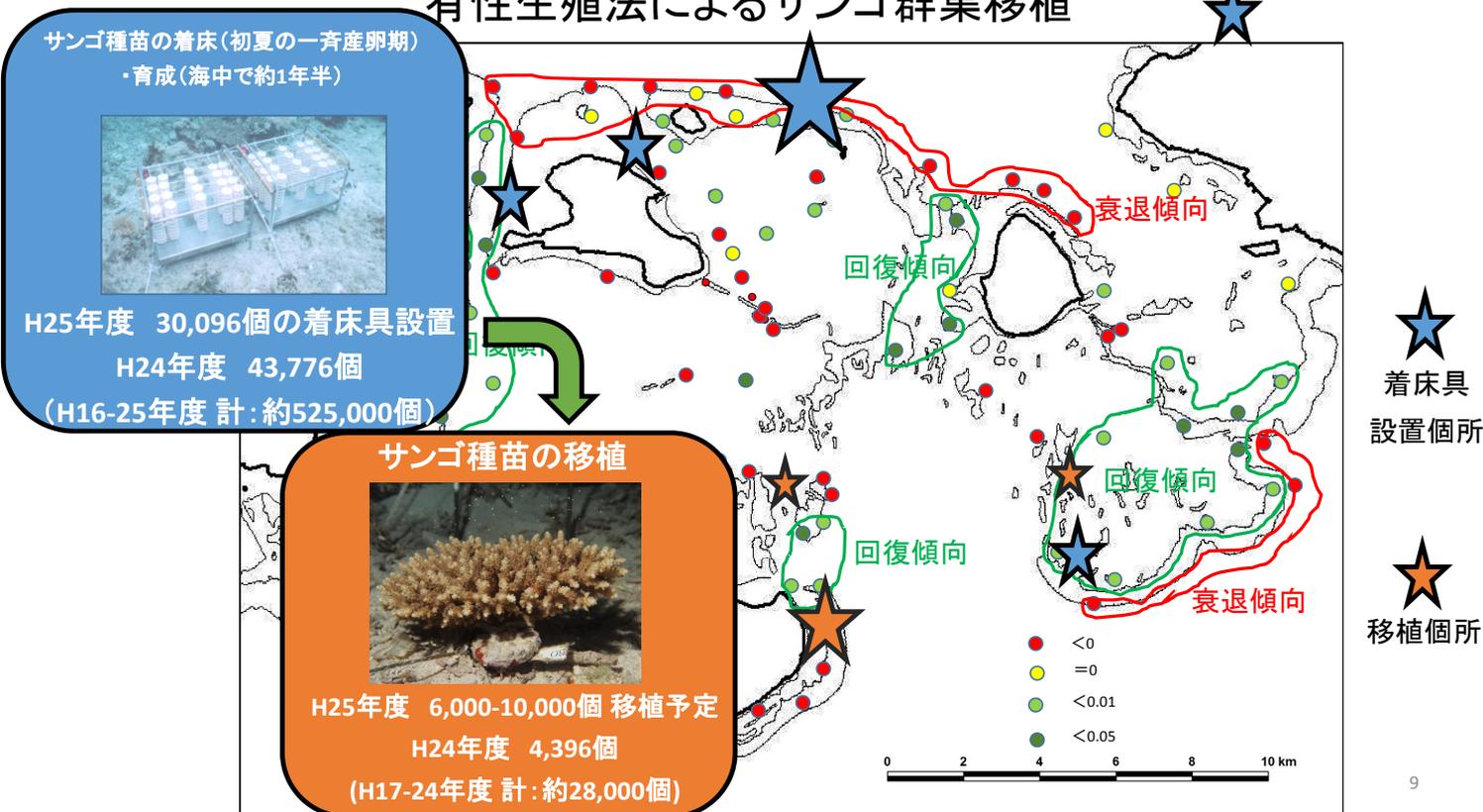
6

# 平成25年度オニヒトデ駆除事業対象地



## 環境省の再生事業

## 有性生殖法によるサンゴ群集移植



## 有性生殖法によるサンゴ群集移植事業の成果

### <採苗率 : (移植数) ÷ (着床具設置数)>

H16年度からの全体の採苗率は5.7%程度だが、  
H24年度は20.5%(H25年度も同程度と推定)  
⇒ 近年採苗率は上昇している。

### <移植後の生残>

2~5年後のモニタリングで40~20%生残  
(幼生からの移植であるため、自然条件下でも生残減少は免れない)  
直径は移植後4年(着床後5年)150mm程度になり  
産卵する群体も見られた。

⇒ H25年5月にも、H18,H20,H21年に移植した群体の産卵を確認。



## サンゴ群集修復の新たな試み(1)

### <スリック採取・水槽での種苗育成>

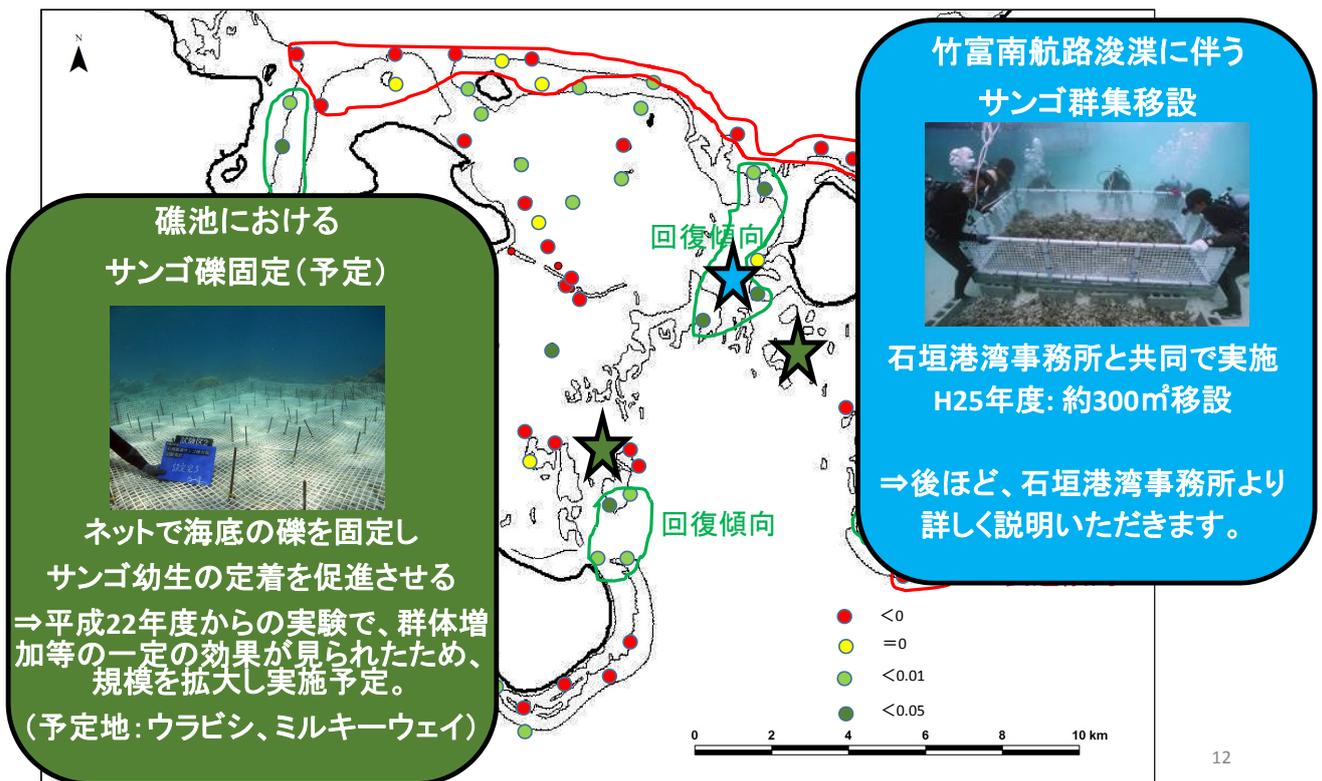


- ・H22年度から実施(現在4年目)
- ・H25年度は、2,736個の着床具を水槽内に設置。  
(移植は今年2月に実施予定。)
- ・幼生の着床率は42~84%と変動  
⇒海中での着床よりは高い値だが、着床具の下処理や死卵による水質悪化対策等について改良の余地あり。

- ・海中に移設後の生残率が低い。  
(移設後約4か月で、着床した群体のうち20-40%程度が残存(H24)。)  
⇒現在は着床後3か月程度で海中に移設し  
他の着床具と合わせて育成しているが、一部の株で水槽育成期間を延ばす実験も実施中。

11

## サンゴ群集修復の新たな試み(2) 礁池内でのサンゴ群集再生



12